



県病医療ニュース

病院機能評価3rdG:Ver2.0認定病院

〒870-8511 大分市豊饒二丁目8番1号 TEL097-546-7111(代表) 内線7712:県病ニュース係

※当ニュースへのご意見・ご感想は県病ウェブサイトをご利用ください。

大分県立病院ウェブサイトはこちら



内視鏡科

内視鏡検査で使用する 鎮静剤・鎮痛剤について

上部内視鏡検査(胃カメラ)や全大腸内視鏡検査(大腸カメラ)をはじめとした内視鏡検査において、処置中の苦痛軽減、精神的な不安軽減、安静維持を目的として適切な量の**鎮静剤**や**鎮痛剤**を用います。大分県立病院内視鏡科の行動指針である「安全・快適・正確な内視鏡診療」を行う上で、今や鎮静剤・鎮痛剤の使用は欠かせないものとなっています。

鎮静とは、投薬によって意識レベルの低下を引き起こすものです。検査や処置の内容によっては鎮痛剤を併用することもあります。なお、鎮静剤や鎮痛剤を使用された場合は1時間程度の安静経過観察の後、完全に覚醒してから帰宅していただく体制をとっています。

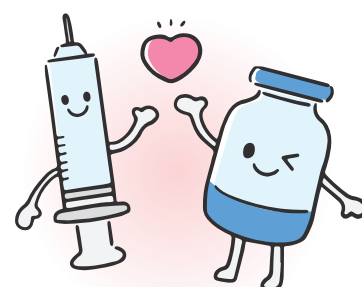
2020年に、日本消化器内視鏡学会から「内視鏡診療における鎮静に関するガイドライン(第2版)」が刊行されました。このガイドラインの内容を参考にしながら、個々の患者さんの希望、年齢や基礎疾患、医師の裁量権などによって柔軟に対応をしています。

当院で内視鏡検査や内視鏡治療を予定されている方につきましては、鎮静剤や鎮痛剤のことで何かご不明な点があれば事前におたずねください。

(内視鏡科 副部長 小野 英樹)

大分県立病院内視鏡科で用いられる鎮静剤・鎮痛剤

鎮静剤	ジアゼパム
	ミダゾラム
	デクスメトミジン塩酸塩
鎮痛剤	ペチジン塩酸塩
	ペンタゾシン



【参考文献・資料】内視鏡診療における鎮静に関するガイドライン(第2版) / 日本消化器内視鏡学会ホームページ

※掲載内容の詳細は各科外来・各病棟でお尋ねください。

(裏面をご覧ください)

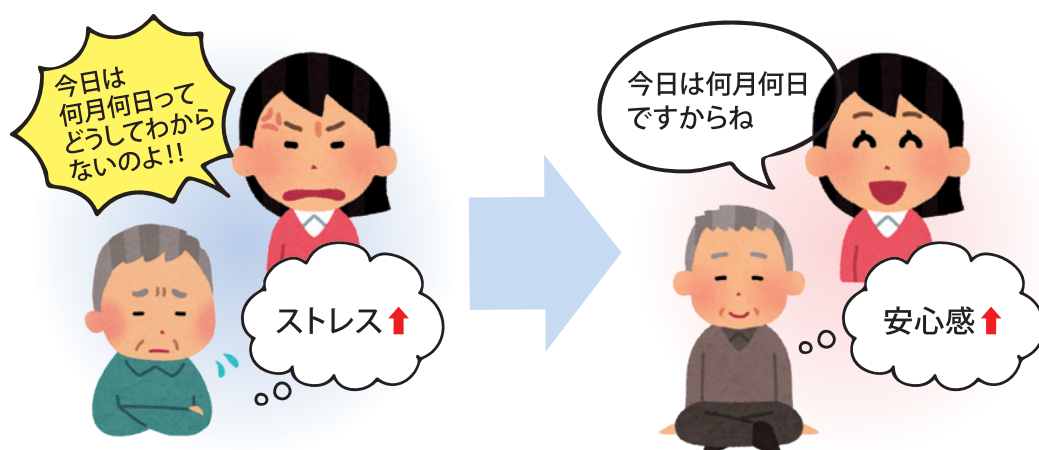
「リアリティオリエンテーションって何？」

～認知症の方が安心して入院生活を送るための取り組み～

認知症の方は、物忘れの症状によって入院していることをすぐに忘れてしまうことがあります。このことで「なぜ自分がここにいるのか」「ここがどこなのか」がわからなくなったりします。病院は夜中でもスタッフステーションに電気がついており、また病室のベッドはカーテンで区切られたプライベート空間です。このため外の景色や日光を感じる機会が減り「今がいつなのか」がわからなくなります。また、聞き慣れない医療機器の音や、医療スタッフが皆同じユニフォームを着ているので「誰なのかわからない」など、日常とかけ離れた特殊な環境下にあり、混乱しやすい状況に陥ります。



このような混乱状態を引き起こさないようにするために、医療スタッフは「リアリティオリエンテーション」という取り組みを行っています。これは「今がいつ」で「ここがどこ」なのか、今話している「人物が誰なのか」などを意識的にお伝えすることで、患者さんご自身が置かれている状況を理解できるようにお手伝いする方法です。入院時にカレンダーや時計、メガネや補聴器の持参をお願いしているのは、その取り組みのためです。特に、普段使い慣れたメガネや見慣れたカレンダー・時計であれば、患者さんご自身でも日時をすぐに確認することができるので、一層効果があります。また、視覚や聴覚から受け取る情報はとても多く、特に人間が外界から受ける刺激の6割は視覚情報とも言われています。患者さんが周囲の状況を正しく認識でき、混乱しないようにするために、普段使用されているメガネや補聴器を準備されることはとても重要です。



(認知症看護認定看護師 長野 恭子)

看護師ほか医療スタッフの
臨時職員を募集しています。
詳しくはこちら